

主題：
ヨハネの繕う務め

メッセージ 4

命の結果——神の建造のための祝宴の家としての召会生活

聖書：ヨハネ1:1, 3-5, 14, 16-18, 29, 32, 42, 51

I. 命は、神の家を建造するために、あらゆる人の事例の必要を満たします——ヨハネ2:18-22：

- A. 道徳的な人の必要は命の再生です——3:3, 6, 14-16, 29-30, 34。
- B. 不道徳な人の必要は命の満足です——4:4-7, 10, 13-18, 24, 28-29, 34。
- C. 死んでいる人の必要は命のいやしです——46-47, 50-53節。
- D. 無力な人の必要は命の生かしです——5:2-3, 5-9, 17, 19, 25-26, 30, 39-40。
- E. 飢えている人の必要は命の養いです——6:5-13, 32, 33, 35, 48-51, 57, 63。
- F. 渴いている人の必要は命の渴きのいやしです——7:37-39。
- G. 罪の束縛の下にある人の必要は命の開放です：
 - 1. 罪のない者はだれであるか？——8:1-9。
 - 2. 罪に定め、また罪を赦すことができるのは、だれであるか？——10-11節。
 - 3. 人を罪から解放することができるのは、だれであるか？——8:12, 24, 28-30, 32, 36。
 - 4. 罪の源と罪の繁殖はだれであるか？——37-44節。
 - 5. イエスはだれであるか？——45-46, 57-58節。
- H. 宗教の中の盲人の必要は命の視力と命の牧養です——9:1, 6-7, 24-25, 35-41. 10:9-16, 27-30。
- I. 死んだ人の必要は命の復活です——11:1-6, 8-16, 21-28, 32-33, 38-44。

II. 命の結果は祝宴の家としての召会生活です——12:1-11：

- A. 祝宴の命は復活の命によって生み出されます。召会は復活の命の産物です——11:43-44. コロサイ2:13. エペソ1:19-23。
- B. 祝宴の家は宗教の外にあります。それは、ベタニヤのらい病の人シモンの家にありました——ヨハネ12:1. マルコ14:3. 参照、ヨハネ11:53, 57. 12:10-11。
 - 1. もし主がわたしたちをあわれむなら、またもし彼の霊がわたしたちの目を開くなら、神が宇宙において行なっていることは、単に人々に神を礼拝させ、神に仕えさせることではないことを見るでしょう。この時代における神の願いと意図は、御子において、ご自身の霊によって、彼の言を通して人の中へと入って人の命となって、人が神のゆえに生きるということです。
 - 2. これは、宗教や宗教観念とは絶対に異なります。教理、形式、儀式、規定を伴う宗教は、キリストの臨在を持っておらず、命の敵です。
- C. ベタニヤには、主がとどまり、安息し、祝宴にあずかり、満足することのできる家がありました。ユダヤ教が主を拒絶した後、彼はいつも出かけて行き、ベタニヤに

とどまりました——ヨハネ12:1-2. マタイ21:17-18。

- D. 召会はい病の人シモンによって表される清められた罪人で構成されています。彼は主によっていやされていたに違いありません——マルコ14:3. マタイ26:6:
1. 彼は主に感謝し、主を愛していたので、主と主の弟子たちのために彼の家で祝宴を設けて、主の臨在を享受しました。救われた罪人はいつもこうします。
 2. 主はわたしたちを死人の中から復活させて、わたしたちを罪から清めます。今や、わたしたちのいる所が召会の集会場所となります。
- E. 外側では、召会は貧しく、苦悩しているかもしれません。しかしながら、内側で、わたしたちは主の臨在の享受をもって豊かであるので、召会の中のあらゆるものは、尊く、甘く、親密です。わたしたちは主と共におり、主はわたしたちと共にいます——参照、マタイ1:23. エゼキエル48:35後半。
- F. 内側では、召会生活は主の臨在の中で、主の臨在をもって祝宴にあずかる生活です——ヨハネ12:2. 詩16:11. 使徒3:20前半:
1. 召会生活において、真っ先に必要なのは主の臨在です。主の臨在がなければ、召会生活は空虚です——詩27:4。
 2. 召会において、わたしたちと主は安息、享受、満足を持ちます。ここには、いつでも主と彼の民のために用意された祝宴があります。
 3. 召会は、主が彼の民と共にご自身を楽しませる場所、また彼の民が彼と共にいることを享受することができる場所です。それは、主と彼の民が共に集まって、互いに祝宴にあずかり、互いに享受し合う場所です。
- G. 原則として、生ける召会には兄弟たちよりも多くの姉妹たちがいます——ヨハネ12:2-3。
- H. 召会生活には異なる機能、すなわち仕えており、証しをしており、愛している機能があります:
1. 仕えている機能はマルタによって表されます (12:2)。わたしたちはみなマルタに対する観念を変えて、彼女を見下げないようにしなければなりません:
 - a. わたしたちは主の中で勤勉で、有能で、活動的で、生きていて、実行的な何人かのマルタを持たなければなりません。
 - b. 召会の奉仕の中で第一に必要な機能は、ある実行的な事柄を顧みることによって仕えることです。
 2. 証しする機能は、ラザロによって表されます——12:2, 9-11:
 - a. ラザロは、主の復活の命の力に対する生きた証し、証し人でした。
 - b. この証しは、復活の力の感覚、復活の命の現れ、命である主の享受を人々に与えます。
 3. 愛する機能は、マリアによって表されます (2-3節)。彼女は、主を極みまで愛し、自分たちの持っている最も大切なものを主に注ぎ出す親愛なる者たちを表します:
 - a. 主に対する彼女の評価は、彼は他の何にもまさって貴重で、愛すべき方であるというものです。
 - b. 召会生活の主要な表現、面、特徴は、わたしたちの最上の愛をもって主に油を

塗ることです。

- c. 「その家は、膏油の香りで満たされた」(3節後半)。この地の召会は、主イエスの上に注がれた香油の香りの尊さ、甘さ、心地よさで満たされた家にたとえられます——参照、列王下4:9. II コリント2:15。
- d. ユダと他の弟子たちは、主にささげられたマリアの愛を無駄遣いと考えました——マタイ26:8-13. ヨハネ12:4-6:
- (1) 過去二十世紀を通じて、幾千幾万の貴重な命、心の宝、高貴な地位、輝かしい前途が、主イエスの上に「無駄遣い」されてきました。
 - (2) そのように主を愛する者たちにとって、主は全く愛らしく、彼らのささげ物にふさわしい方です。
 - (3) 彼らが主の上に注いだ物は無駄遣いではなく、主の甘さの香ばしい証しです。
- e. キリストにある信者は彼らの価値観を変えるべきです。キリストご自身は彼の信者たちにとって尊い方です——I ペテロ2:7. ピリピ3:8-9. マタイ23:16-26. I サムエル16:7. ルカ16:15. 9:54-56. I ペテロ3:4:
- (1) 信者たちの正しい価値観が見られるのは、キリストの次の面と彼の完全な救いに対する彼らの見方と評価においてです:
 - (a) 主イエスに対する彼らの評価——詩118:22. I ペテロ2:7。
 - (b) 十字架の言葉に対する彼らの評価——I コリント1:18. I ペテロ2:24. 3:18。
 - (c) 人の日ごとの必要と比較した主イエスに対する彼らの評価——マタイ6:32-33. II ペテロ1:1, 11. 2:5. 3:13。
 - (d) 彼らの親族と比較した主イエスに対する彼らの評価——マタイ10:37-38. ルカ18:26-30. I ペテロ1:1, 17. 2:11前半。
 - (e) 全世界と比較した人の魂に対する彼らの評価——マタイ16:26. 4:8-11. 啓18:13. I ペテロ4:19。
 - (f) 罪の重大さとその成り行きと比較した、肉体に対する彼らの評価——マタイ18:8-9. II ペテロ3:10-13。
 - (g) 主の奴隷であることと、互いを比較した階級的な地位に対する彼らの評価——マタイ20:25-27. I ペテロ2:16. II ペテロ1:1。
 - (h) 地の宝と比較した公正の宝としてのキリストに対する彼らの評価——ヨブ22:23-28. マタイ12:18-21. イザヤ42:1-4. I ペテロ1:18-20。
 - (i) 目に見えない褒賞と比較した罪の享受に対する彼らの評価——ヘブル11:24-27. I ペテロ1:8-12. II ペテロ1:8-11. 2:20-22。
 - (j) 万物と比較したキリストを知る知識に対する彼らの評価——ピリピ3:7-8. I ペテロ1:8. II ペテロ1:2-3, 8. 2:20. 3:18。
 - (2) わたしたちは、主がわたしたちに価値観における徹底的な変化を与えてくれるように求める必要があります。それは、わたしたちは絶えずキリストと彼であるすべてを超越したわたしたちの分け前として選択するためです——マルコ9:7-8. II コリント2:10. 4:7. I ペテロ1:8。
 - (3) 「もし、あなたが価値のないことを言わず、尊いことを言い出すなら、あな

たはわたしの口のようになる」——エレミヤ15:19. 参照、16節：

(a) わたしたちは割り当てられた食物以上に主の言を尊び、御言の中で、栄養のある乳と新鮮な蜜の流れる良き地の実際として主を味わって、神の民の完全な救いのために、彼らに分与しなければなりません——ヨブ23:12.

I ペテロ2:2-5. 詩119:103. 出3:8. 申8:8. 雅4:11前半。

(b) わたしたちは主の言をすべての地的な豊富以上に尊ばなければなりません。それによってわたしたちは神の託宣を語って、神のさまざまな恵みとしてのキリストの計り知れない豊富を分与することができます——詩119:

72, 9-16. エペソ3:8. II コリント6:10. I ペテロ4:10-11。

4. わたしたちはみな召会の三重の肢体、すなわち、「マルタ・ラザロ・マリア」とならなければなりません：

- a. 召会生活には、主のための勤勉な奉仕と、主の復活の命の生ける証しと、主の上に注ぎ出された絶対的な愛がなければなりません。
- b. 真の召会生活において、主に対する奉仕が提示され、主の証しが見られ、主に対する愛が注ぎ出されます。これが主のからだの真の表現であり、主を内容とし、主を表現する器です。